

作文・絵作文コンクール

優秀作品集

令和5年度版



全国の附属学校園の子どもたちが先生との思い出や感謝の気持ちを作文・絵作文で表現したものを一冊の作品にまとめました。



一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会



主催 / 一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会
担当 / 令和5年度全附P連広報委員会
発行日 / 令和6年3月31日

ご挨拶

平素は、一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会の事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。「作文・絵作文コンクール」開催および優秀作品集の発行にあたり、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

第6回目を迎えた「作文・絵作文コンクール」は、わが国の教育を支え、日々子どもたちを見守り育てていただいている教職員の皆様へ感謝の気持ちを、また、その感謝の気持ちを表す「教師の日」の制定へ向け、国立大学附属学校PTAとして支援する目的で企画・開催されています。

3年以上続いた、コロナが感染症分類で2類相当から5類に引き下げられ、学校での生活も徐々にですがコロナ以前の形に戻りつつあります。マスクで見られなかった顔の表情、大きな声で歌うことや、握手することもためらう生活、そこからやっと多くの友達や先生と楽しく声を出して笑う姿が戻ってきました。コロナ禍では、子どもたちの接触や手洗い、給食時の会話など多くの感染対策に気を使ってくださったのが先生方であり、保護者としても感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナ禍であっても、いつも通りの気持ちで学校生活が送れるよう子どもたちに寄り添い、常に子どもたちを想っていただき、ご尽力いただいた先生方の姿が作品の中から感じられました。この作品集が、子どもたちから全国の教職員の皆様に届きますよう、そして、教員をめざす学生の皆様にも手に取って読んでいただくことが出来ることを切に願っています。

最後になりましたが、本コンクールを開催するにあたり、ご多忙の中、審査委員長を快くお引き受けくださいました児童文学作家くすのきしげのり先生に感謝の意を表するとともに、たくさんの感謝の気持ちを作文・絵作文にして、応募してくれた全国の子どもたちが、これからも健やかに成長されることを心より祈念申し上げます。

一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

会長 桑名良尚



「作文・絵作文コンクール」に寄せて

この度、一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会主催の「第6回全附P連作文・絵作文コンクール」の開催及び作品集の発刊に、心よりお喜び申し上げます。

現在、社会やICTなど教育を取り巻く状況の変化に伴い、子供たちの学びや教師に求められる力、その働き方も大きく変わってきています。さらには教師のなり手不足や多様な専門性を有する人材の確保といった喫緊の課題も生じています。このような中、日々、教育の最前線において御尽力されている教師の皆様や子供たちに寄り添っている保護者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

さて、本コンクールに寄せられた子供たちの作文・絵作文は、その純真さと教師への想いに満ちています。このような作品を通じて、子供たちが自分自身を表現し、自己肯定感を高めることができるのみならず、学校現場の教師にとっても、喜びや達成感を得られることは素晴らしいことと思います。これらの作品を読むと、教師が子供の成長を支えていること、教師と子供たちの関係は、相互の信頼と理解に基づいていること、そして、子供の教師への想いと教師のやりがいについて、それぞれのエピソードや子供たちの声から、改めて気づかされ、心に刻まれます。

この作品集を通じて、教育をとりまく社会がより温かく、希望に満ちたものとなることを願っています。

今後とも、本コンクールをはじめ、全国国立大学附属学校PTA連合会の取組の更なる充実とともに、国立大学附属学校がその使命・役割を果たし、わが国の教育の発展に寄与していくことを祈念いたします。

文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課
教員養成企画室長 **小倉基靖**



「作文・絵作文コンクール」に寄せて

今回で6回目の開催となる全国国立大学附属学校PTA連合会主催の「作文・絵作文コンクール」が、全国から多数の応募によりとても充実した企画となりましたことをお慶び申し上げます。今年のテーマは「せんせい、ありがとう！」で、どの応募作品も子どもたちの心がこもったものになっていました。審査委員の先生方も、きっと審査に大変ご苦労なされたことと思います。

今回は、先生方への感謝や思い出といった、子どもたちの心の奥にある気持ちをどのように表現するかが、子どもたちにとって難しい挑戦であるとともに、読み手にとっては作品を読む醍醐味だったと思います。生成系AIの進化に伴い、上手な文章や絵は、コンピューターでいくらでも作れる時代になりました。でも、一人一人の子どもが、自分の気持ちを自分なりの表現で他の人に伝えようとする姿は、決して機械ではまねできないものです。入賞した人だけではなく、コンクールに参加したすべての皆さんには、「自分のことを一番知っているのは自分なのだから、自分の気持ちを最も上手に表現できるのも自分なんだ」という自信をもって、これからも創作活動にいそしんで欲しいと思います。

国立大学附属学校には、研究能力と教授能力に優れた素晴らしい先生方が多くいます。今回の作品のように、子どもたちが各々の気持ちを、自分の力でしっかり表現できていることこそが、先生方の日ごろの指導の賜物だと思います。附属学校園の今後のさらなる活躍を期待いたします。

全国国立大学附属学校連盟
理事長 **鎌田正裕**



賞 長 会

福岡教育大学附属福岡小学校 4年 水間 瑛

が、四年生になってみると、わたし一人だけになっちゃってしまいました。

ある朝、いつものようにそうじをしていると、田中副校長先生が来ました。すると、先生もほうきではじめました。その日から副校長先生はFVCに参加するようになりました。ひとりぼっちだと思っていたところに、まさかの先生が加入しました。仲間ができてうれしかったです。はずかしくて、最初のころはあまり話せなかつたけれど、今では連日、プレードゴミを運べるようになりました。

九月の後半、たんにんの松木先生が声をかけてくれました。FVCの活動に取り組んでいることを、前期終業式の日全校のみんなの前で発表してみようか、ということでした。松木先生は夏休み前、わたしが副校長先生と二人でFVCをしていたときに、活動の様子を見に来てくれたことがありました。それから、わたしがそうじを続けていくのを見てくれたのだと思いました。

20 x 20

前期終業式の発表の後、おどろくことが起きました。一つ目は、今まで話したことがなかったたくさん友達、学年をこえて声をかけてくれるようになったことです。

「発表良かったよ。」

「いつもありがとう。」

「一しよに遊ぼう。」

どれもうれしい言葉でした。

二つ目は、FVCに参加する友達がふえたことです。多いときは二十人くらいで活動できるようになりました。

「バッジをもらいたくて参加していたFVCが、日課に変わるまでの四年間。先生方は、わたしが成長するまで、かけを作ってくれて、そして見守ってくれていました。」

五年生になったら、FVCの中心となる生活かんさう委員会の一員になることが決まっています。先ばいがつくってくれたFVCという活動を残していくために、わたしができることをせいいばいしていきたいです。

20 x 20

～くすのき先生からのひと言～

ボランティアの掃除を50回するともらえるFVC（附属ボランティアクラブ）のバッジを目標に、1年生から始めたボランティア活動。それが先生のアドバイスをきっかけに、いつしかバッジのためではなく自分の意志で進んでするようになりましたね。3年生になっても4年生になっても一人になっても自分の日課として活動を続ける作者。その姿に寄り添い、ともに掃除をする副校長先生。終業式での活動の発表。そして活動に参加する仲間が増えました。4年間の毎日の積み重ねが、作者を大きく成長させたことがはっきりと伝わってきます。

わたしを変えたFVC

福岡教育大学附属福岡小学校

四年 水間 瑛

わたしの学校には「ふぞくボランティアクラブ」というものがあります。学校のみならず「FVC」とよんでいます。朝の時間に、校庭などの外をそうじするのが主な活動内容です。学年を問わず、だれでも参加できます。わたしはFVCに参加しようと思っただけ、わたしは毎年五十回そうじをするつもりでFVCバッジです。これを名札の横につけて、入学してからまずは五十回行きまわす。二年生になってもバッジが目的で、五十回を目指してFVCを続けていました。

朝、急に雨がふって来た日がありました。「今日はFVCできないね。」

友達と話していると、その時大人にんだた鳥田先生が、会話を聞いていて、「先生は、雨でもできることがあると思うな」と、話しかけてきました。教室のそうじを思

20 x 20

いついたけれど、それはFVCの活動ではないので、バッジをもらうまでの回数には入りません。「やっても意味ない」と思いながら、とりあえずみんなのロッカーの整理を始めました。一通り終わらないうちに、改めてロッカー全体を見てみると、自分の中で何かが変わった気がしました。

「きれいになると、気持ちもすっきりする。」

FVCの活動回数には入らないけれど、その日から雨の日は教室やるう下のそうじをしてみることになりました。

「続けてみるものだなあ」と思いました。三年生になると、よごれやすい場所がだんだんとわかるようになってきました。整理整頓されているか、よくかくにんするようになりました。そして、きれいにならないうちに、みんなが笑顔で楽しく遊んでいるところを見ると、うれしくなる自分が見えました。

ところが、さびしいことが起きていました。一年生のときは何十人もいたFVCの参加者

20 x 20

優秀賞 絵作文

山梨大学教育学部附属中学校 1年 笠原 心愛



学校名 山梨大学教育学部附属中学校 名前 笠原 心愛

先生は太陽
山梨大学教育学部附属中学校
一年 笠原 心愛

私の担任の先生、赤池先生は笑顔がとて
おてきな先生です。入学式当日、知っ
ている人がクラスにおらず、緊張して
いたとき赤池先生の笑顔を見ました。
先生の笑顔も見るし私も自然と笑
顔になって緊張がほぐれた気がし
ました。また、合唱コンカールの練
習がうまくいかず、クラスが暗くな
っていき、先生が笑顔になるときも
先生が笑顔になるとクラス全員が笑
顔になります。今度私たちが赤池
先生の太陽になりたいです。私は太
陽みたいになりたいです。赤池先生
の笑顔が大好きです。赤池先生あ
りがとうございます。

20 x 20

～くすのき先生からのひと言～

太陽の光のようにまっすぐに生徒たちに届く先生の笑顔。もちろんそれは分け隔てなくみんなにそそがれていることでしょう。そして、その笑顔はクラスの中に広がっていきます。先生のすてきな笑顔が明るく描かれています。

優秀賞 絵作文

滋賀大学教育学部附属小学校 4年 東 美怜



学校名 滋賀大学教育学部附属小学校 名前 東 美怜

私のクラスと思いやり
滋賀大学教育学部附属小学校
四年 東 美怜

私が四年生になりました。たくさんできた事は
思いやりです。行動する事です。
私のクラスでは「思いやりタイム」とい
う時間があります。思いやりタイムでは、み
んなの良が。たところをたくさん、みつけら
れるように毎日しています。
先生は「思いやり」の話をしてくれます。
「思いやり」は「相手の気持ちになつて考
える」という事だと、教えてくれました。
みんなが校外学習にいきました。子連れの
親子が乗車した時にある友達の声をかけて
席をゆすっていました。親子は笑顔でした。
思いやりはすこいなと思いました。
思いやりは相手の気持ちを考えてから、行
動にうつす事が大切だと思いました。思いやり
は先生が教えてくれました。私のクラスも
思いやりあふれるようにしていきたいです。

20 x 20

～くすのき先生からのひと言～

クラスにある「思いやりタイム」。先生がしてくれる「思いやり」の話。そして実践することの大切さ。相手の気持ちを考えて行動できる場面が増えれば、もちろん描かれているように笑顔も増えますね。

優秀賞 作文

三重大大学教育学部附属小学校 2年 吉田 唯菜

長井先生ありがとう
三重大大学附属小学校
二年 吉田 唯菜

二年生になる前の春休み、わたしは学校に行くことがとてもこわくな。そして、ごはんが食べられなくな。たり、はいてしま。たり、体がとてもいたくな。たりして、体も心も学校へ行きたくないよとなりました。始業式、学校へ行くことがこわくてこわくてしかたない、たけれど、お母さんとお姉ちゃんとい。しよに電車にの。て外へは、て学校に行きました。なかなかに足がすすまなくてなみだもたくさん出てきました。でも、お母さんやお姉ちゃんにはひましてもらいながら少しずつ少しずつ前にすすんで、と、でも時間がかか。たけれど学校につきました。クラスは、びよ。うの紙を見て、一年生の時に一番仲良かった。た子とクラスかはなれてしま。たのでも、とも、と学校に行きたくないという気持ちが強くなりました。教室に入。ても、

一年生の時は分が、こいた友だちとの話し方が全然分がなくな。てしまいました。わたしはクラスのだけれとも話せずいつも一人ぼちです。とお姉ちゃんのところに行。こいしました。毎日学校に行くことがこわいので、朝も夜もなみだか止まりませんでした。お母さんに毎日学校までついてきてもら。て外へは、て学校に行。こいしました。ようち園の時から聞いた。たお友だちもたくさん話しかけてくれたけれど、わたしはどうやって話していいのかが分かりませんでした。

一回目のせきかえの時、周りにはようち園のお友だちしかいないせきになりました。わたしは少しずつ周りのお友だちと話せるようになった。き。と長井先生がそういうせきにしてくれたのだと思います。長井先生は、わたしか不安な時や学校がこわい時に元気が出る言葉をたくさん言。てくれました。長井先生と話す。と、どうしてか分からなけれど、心が強くな。ていききました。

唯菜はわるくないんだからどうしようとしてたらいい。

と。言う。こ。は。で。わ。た。し。は。一。気。に。気。も。ち。か。楽。に。な。り。自。分。か。ら。学。校。へ。か。ん。は。て。行。こ。お。よ。う。と。い。う。気。も。ち。か。ど。ん。ど。ん。ふ。ん。て。き。ま。し。た。ク。ラ。ス。の。お。友。だ。ち。と。も。少。し。づ。つ。話。せ。る。よ。う。に。な。っ。て。み。ん。な。か。わ。た。し。を。心。ば。い。し。て。く。れ。て。い。た。こ。も。分。か。り。ま。し。た。

いつもお姉ちゃんに会いたが。た休み時間かお友だちとあそびたい時間になりました。

いつもつらか。た学校への行き道が、今日はみんなと何してあそぼうかな、今日のじ。業。式。と。ん。な。こ。と。す。る。の。か。な。と。い。う。わ。く。わ。く。し。た。気。も。ち。に。な。り。ま。し。た。今。は。学。校。へ。行。く。こ。と。か。と。っ。て。も。楽。し。い。で。す。先。生。も。お。友。だ。ち。も。大。好。ま。い。で。す。学。校。か。つ。ら。く。て。毎。日。な。い。こ。い。た。あ。の。時。の。わ。た。し。に。大。丈。夫。だ。よ。と。つ。た。え。た。い。で。す。そ。し。て、長井先生とクラスのみんなに、わたしか学校に行くようにしてくれてありがとう。と。う。ご。さ。い。ま。す。と。つ。た。え。た。い。で。す。

わたしは、学校に行くことがつらか。たりこわいと思。て。り。る。子。に、長井先生おたいにゆうきや元気の出る言葉をたくさんかけて、学校は楽しいところだよみんなかただよとつたえたいです。わたしは、長井先生おたいなせ中をおせる言。は。を。た。く。さ。ん。の。人。に。か。け。れ。る。人。間。に。な。り。た。い。で。す。

長井先生か大好きです。ありがとうごさいます。

～ くすのき先生からのひと言 ～

学校へ行くことが難しくなったときのこと。あたたかい家族の励まし。不安な心に寄り添う先生の優しい言葉や配慮。自身の心の様子や変化をていねいに振り返りながら、しっかりと考えることができましたね。

優秀賞 作文

鹿児島大学教育学部附属中学校 3年 中村 愛花

近づく。無理なのかな。あんなに頑張ったのに。だいたい先生をがっかりさせて終わるわけにはいかない。でも、もう心の中は不安でいっぱい。涙が溢れそうになった。

「愛花ー」

名前を呼ばれた私は振り返るとそこにいたのは先生だ。次はこれを意識してどうすればいい。色々アドバイスを全跳躍前にしてくれた。五才目の跳躍に入り次は私の番だ。緊張が過ぎた。もうこんなとき、温かい言葉を私は救われた。

「愛花は残り二センチで負けるような取り組みじゃないから大丈夫。楽しんでこいよ。」

もう涙が止まらなかつた。我慢していたものの全部出ていくそんな感じだ。うのせいであり五才目は踏切板を起えろしまいアールだ。もう残さされているのはラスト一本。そんな中自分の眼を閉じている私は確かに大きく緊張していた。しかし、さまでとは

20 x 20

私の「先生」

中村 愛花

いつも通り梅が散る中、附属中の正門を通った一年前。今日は始業式。クラス発表や新式など大きな行事がある。私は陸上部に所属している。顧問の先生方は二人とも話していいな。たまため全くソワソワすることなく部活動顧問発表を聞いていたときだ。陸上部とその言葉の後に続いた名前が聞いたことのない新任の先生。そんな中どんな先生だろうと部活動の時間を迎えた。一気に雰囲気が変わった。別に奥の上位でも陸上が大好きだ。たわけでもない私はなんかきつくな。たなと思うこともあった。

一年生の時よく部活をすぼめていた私だが二年生の十月ハートルを続けながら幅跳びにも挑戦することにした。4m後半からスタートした幅跳びは練習すればするほどどんどん記録は伸びていき私の自己ベストは5m43cmまで成長することかできた。十一、十二、五、

20 x 20

全然違うような気持ちだ。先生の言葉を信じていたからだ。先生の一言で私は不安な気持ちから私は大丈夫と前向きな気持ちに変化したのだ。次はラストの跳躍。私の名前現在の記録も七標準記録が放逐され今までにない最大の声で「行きます」そう言い走り始めた。跳び終わりに記録を測っている。競技場内が一気に静かになり緊張が漂う中放逆だけが響いている。5m45cm。自己ベスト22センチ更新の標準記録突破だ。記録が上まれた瞬間先生のところに行き手を止めた。部活を引退した今当時のことを振り返る。もう、感謝。この一言しか出さなかった。ありがとう。何だか全部の感謝を伝えきれないと思うほどだ。

陸上部を指導してくれている顧問。それなく私の気持ちに寄り添い目標に向かってくれた先生。つくれて達成したら誰よりも喜んでくれる先生のこと。私は大好きだ。

20 x 20

六月。あ、という間に運命の日がやってきました。全国大会への出場を切符に獲得できる標準記録は5m45cm以上。自己ベストからあと二センチの記録だ。た、た二センチと聞く人はいらぬかもしれないが毎回自己ベストが出ることは限らないし、もう三ヶ月も自己ベストを更新することができていない。私は、全国大会への出場権を獲得し先生を喜ばせたい。この一心で毎日の練習はもうろん日々。生活態度。金手制限などに取り組んできた。

迎えた当日。私が先生と話した目標は「一本目で標準記録を突破して安心して残りの跳躍に挑む」ということだ。220cmのせいで二番手が呼ばれど、トに立った。行きません」と周りにいるみんなに合から跳ぶことを知らせ準備満タンの状態で走り出した。記録。5m43cm。そうよまれた瞬間またあと二センチ。涙が溢れそうになった。だがまだ二本目があると次の跳躍へ準備を始めた。全六本の跳躍だが二、三、四本とどんと最終跳躍へと

20 x 20

～くすのき先生からのひと言～

陸上部の顧問となった新任の先生。部活動の雰囲気も変わる中、幅跳びにも挑戦することになった作者。全国大会への出場を目指し自己ベストの更新に挑む競技中の臨場感と、寄り添う先生の姿。そして標準記録を突破した歓喜がいきいきと書かれています。

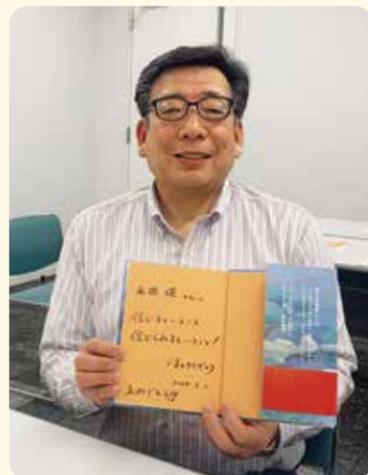
審査委員長 略歴

1961年生まれ、徳島県鳴門市在住。鳴門教育大学大学院修了。

小学校教諭、鳴門市立図書館副館長を経てオフィスKUSUNOKIを設立。現在は作家として児童文学を中心とする創作活動と講演活動を続けている。

絵本『おこだでませんように』（小学館）が2009年度全国青少年読書感想文コンクール課題図書に、2011年には、IBBY（国際児童図書評議会）障害児図書資料センターが発行する推薦本リスト「世界のバリアフリー絵本」に選出される。同作品で第2回JBBY賞バリアフリー部門受賞。2013年には『メガネをかけたら』（小学館）が全国青少年読書感想文コンクール課題図書に選定される。『メロディ』（ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス）『ええところ』（Gakken）、『ふくびき』（小学館）『ともだちやもんな、ぼくら』『ええことするのは、ええもんや』（共にえほんの杜）『ダメ!』（佼成出版）『しょうじき50円ぶん』（あかつき教育図書）等、教科書掲載作品をはじめ、『Life(ライフ)』（瑞雲舎）、『あなたの一日が世界を変える』（PHP研究所）、『いちねんせいの一年間』シリーズ（講談社）、『すこやかな心を育む絵本』シリーズ（あかつき教育図書）など、200タイトルを超える作品は、日本および海外で広く読まれている。

- 日本児童文芸家協会評議員
- 徳島児童文学学会会長
- 絵本・応援プロジェクト代表
- 四国大学文学部非常勤講師（絵本・児童文学創作）



記念品

会長賞

- くすのきしげのり審査委員長より寄贈のサイン入り絵本
- ペンケース（工房わかぎり）

優秀賞

- ペンケース（工房わかぎり）



くすのきしげのりオフィシャルホームページ
<http://www.kusunokishigenori.com/>



サイン入り絵本



工房わかぎりは、筑波大学附属特別支援学校の親の会「桐親会」を母体としてできた知的障害者のための就労継続支援B型事業所です。記念品「犬のペンケース」は多彩なカラーで多様性を表現するベストセラー商品です。



工房わかぎりホームページ
<https://wakagiri-hp.normanet.ne.jp/>



犬のペンケース（工房わかぎり）

審査委員長 講評

この「作文・絵作文コンクール」のテーマは、「先生へのメッセージ」や「先生との思い出」です。第6回目を迎えた今年も全国の国立大学の各附属学校から、たくさんの素晴らしい作品の応募がありました。

今年度はコロナ禍を越え、やっと通常の学校生活に戻ってきたことと思います。またその過程では運動会などの学校行事や様々な活動の見直しが進み、アップデートされ、新たな形となったものも多いのではないのでしょうか。

コロナが流行したときやその後にあたる本年度がそうであるように、学校は様々な変化に対応しながら教育活動が進められています。

どのような状況であっても学校には子どもたちの毎日の成長があります。そしてそこには、より良い成長を願い日々寄り添い見守る先生方の姿があります。

多くの業務の中にあっても、休み時間には子どもと遊ぶ先生。自分で考えることを促しその過程を認める先生。不安な心に温かく寄り添う先生。苦手なことに挑戦する背中を優しく押してくれる先生。

応募作品には、そんな学校の様子や先生との学校生活がいきいきと表現されていました。一人ひとりをしっかりと見つめる先生のまなざしに対する信頼や尊敬や感謝の気持ちも読み取ることができ、今回も、審査をしながら心動かされる作品がたくさんありました。

子どもたちの毎日に、そして先生方の人生に、たくさんの笑顔があることを心より願っています。

審査委員長

児童文学作家 くすのき しげのり